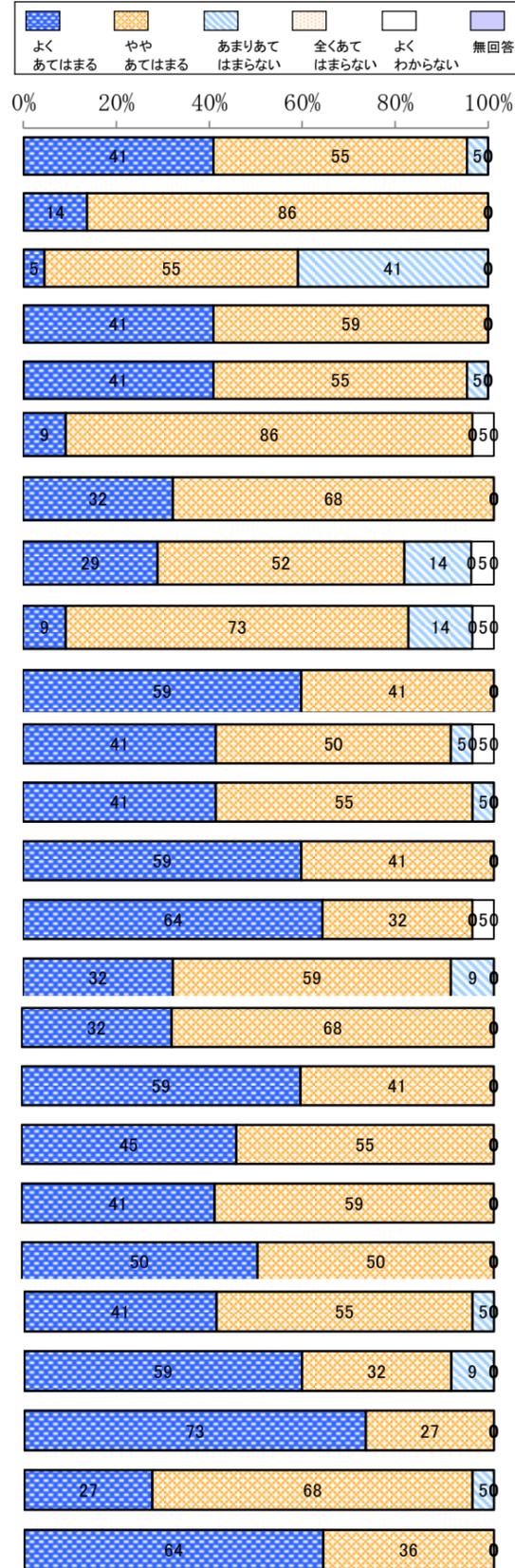


アンケートの結果			上段：児童 下段：保護者等 グラフ：教職員					
			A	B	C	D	よく分からない	無答
学校全体の様子	1	教育目標・方針	15	15	3	1	2	64
	2	児童・生徒の様子	63	24	8	3	2	0
	3	基本的な生活習慣	47	35	12	2	2	1
	4	児童・生徒理解	43	32	17	4	4	0
	5	健康・安全・安心	53	28	10	5	3	1
学力向上の取組	6	分かる授業	50	33	10	4	2	1
	7	個に応じた指導	55	27	11	4	2	1
	8	学習習慣	67	18	9	4	3	0
	9	情報教育	59	21	11	7	2	0
	10	学校図書館の活用	60	25	9	4	2	0
社会性・人間性の育成	11	人権教育	63	27	6	1	2	0
	12	道徳教育	36	29	19	8	8	0
	13	教育相談	40	24	16	10	10	0
	14	人間関係づくり	73	15	6	3	2	0
	15	自治的な活動	57	30	8	2	3	0
保護者・地域との連携	16	情報発信	48	18	9	4	21	0
	17	相談への対応	46	29	10	6	9	1
	18	学校への参加	57	21	11	5	5	1
	19	地域との連携	44	24	15	10	7	1
	20	意見の反映	50	23	9	4	14	1
各学校の特色ある教育	21	体力向上	41	15	17	16	10	0
	22	体力向上	61	22	8	5	5	0
	23	英語活動	62	20	8	5	5	0
	24	学習習慣	57	25	8	5	5	0
	25	図書館	66	18	9	4	3	0

無効票を除く(%)



無効票を除く(%)

学校の自己評価 (考察)

- ・教育目標を学習活動を通して具現化し示していること。児童には集会等で折に触れ話しており概ね周知されている。
- ・概ね達成しているが、児童と保護者の結果に開きがあることから、保護者に活動の様子をより多く伝える機会が必要である。
- ・教職員は基本的な生活習慣の定着に課題を感じている。昨年度より良好な数値が示されているが家庭との連携が課題である。
- ・昨年度に比べ保護者が児童理解を認める結果が出ている。保護者との連携やSC等の活用の成果と考える。
- ・昨年度より保護者結果が伸びている。保護者と児童が共に参加する防災訓練の成果と考える。地域との連携が課題である。
- ・児童と保護者の結果に開きが見られる。学校での学習の様子を示すとともに学習成果が示せるよう授業力向上に努める。
- ・保護者のややあてはまるの回答が多い。習熟度別学習の学習内容や方法を具体的に示し、取組内容の理解を促進していく。
- ・「あらかわ寺子屋」実施等による一定の成果はみられるが、教職員に学習習慣に対する課題意識が高い。より工夫が必要である。
- ・児童や教職員にはICT教育の実感がある。保護者にも学校公開日での使用や作品の掲示等で取組を示すことができた。日常化が課題である。
- ・児童・保護者・教職員共に概ねよい結果が出ている。図書ボランティアなど保護者による活動も実感となって結果に表れている。
- ・人権教室や法教育の充実等により、児童・教職員の意識と実感が高まった。保護者への周知と協力体制の構築が課題である。
- ・「道徳授業地区公開講座」の充実により理解が深まった。「特別の教科道徳」実施に向けて家庭との連携を図っていく。
- ・昨年度以上に保護者に「よくわからない」という回答が多い。学校の取組を示し、SCの活用を促していく。
- ・児童の実感が非常に高く保護者の理解も得ることができた。実際に参観したり参加していただいた成果である。
- ・三者共に自治的活動の実感が昨年度より上がった。特別活動の充実、縦割り班活動等児童が能動的する仕組みの構築の成果である。
- ・学校便りやホームページ等による教育活動の発信は推進している。さらに分かりやすくする工夫をしていく。
- ・概ね良好な結果が得られている。引き続き、報告・連絡・相談の体制を整えて、外部からの声を真摯に受け止め対応していく。
- ・授業公開日の保護者参加の行事の設定は、参観人数の増加と児童の健全育成において相乗効果を生んでいることが分かる。
- ・教職員の意識が昨年度を上回った。地域行事や日頃の安全見守りなど様々な場面への参加により繋がりを実感した成果である。
- ・保護者の「よくわからない」という回答が昨年度より減り、教職員にも反映の意識の高まりが見られた。連携体制が出来つつある。
- ・三者共に成果のある実践と認識している。体力向上と共に異学年交流、思いやりの心を育てる場としての充実が課題である。
- ・計画的に実践できた。児童の体力の向上を数値の成果として示せるよう工夫改善していく。
- ・ALT、NEAの活用により、計画的に実施することができた。児童の満足度も高い。他教科や領域と関連させる取組が課題である。
- ・児童・保護者・教職員ともに課題があるとしている。PTA役員と連携するなどして保護者と学校が一体となるシステムを作る。
- ・三者共に本校の特徴として捉えている。学校図書館学習・情報科センター化推進校として、研究や小中連携を充実させていく。